

5 読書活動の充実

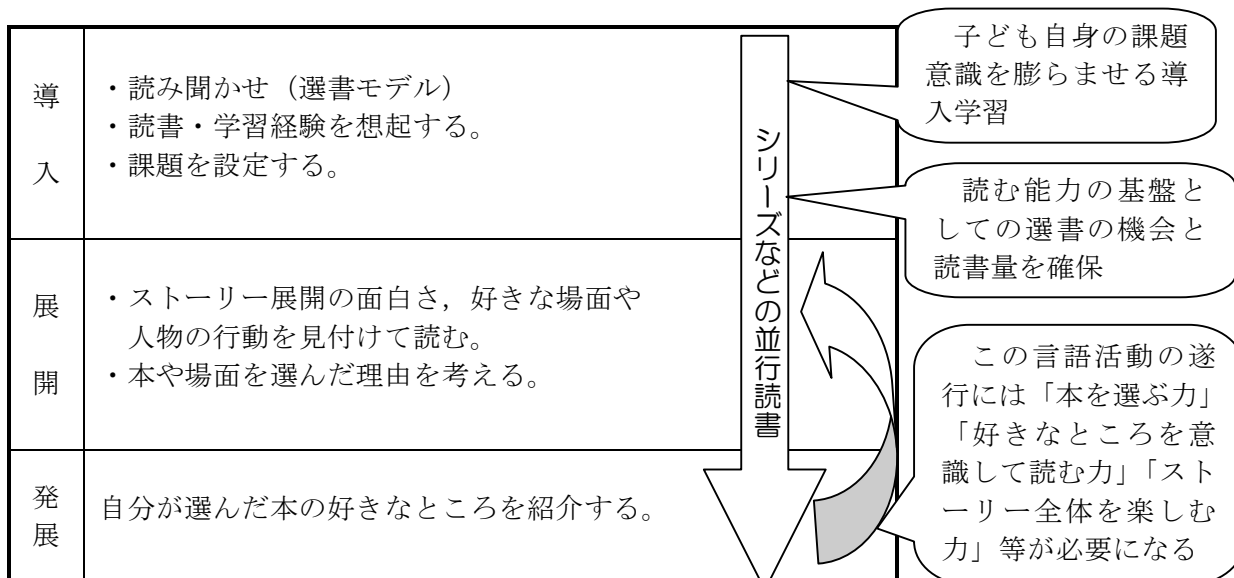
(1) 日常の読書活動につなげる指導

言語に関する能力を育むに当たっては、読書活動の充実が不可欠である。小学校国語科においては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域の指導の中で必要な図書資料を得るなど、目的を明確にして学校図書館を計画的に利用し、読書活動を進めることが大切である。また、読書は知的な活動や、人間形成や情操を養う上で重要であり、多様な指導を展開していく必要がある。

各学年の「読むこと」には、物語や詩、伝記、説明、記録、解説などの多様な本や文章を読んで感想を述べたり、考えを表現したりする言語活動例を示している。このような言語活動を通して、本の題名や種類などに着目したり、索引を利用して検索をしたりすることにより、児童自ら必要な本や資料を選ぶことができるように指導する必要がある。また、一冊の本だけでなく、同じ主人公や作家の本やシリーズへと、児童の読書範囲が広がるよう工夫して指導する。

参考 「言語活動の充実を図る全体計画と授業の工夫」 独立行政法人教員研修センター

一例として、「読むこと」第1・2学年ウ・オ・カを重点的に指導する単元を提示する。次のような導入・展開・発展の流れの中で、同じ主人公や作家のシリーズなどの並行読書を行うことにより、読書範囲が広がり日常の読書活動に結び付けていくこともできる。



参考「新学習指導要領の趣旨を生かした国語科の授業づくり」文部科学省・国立政策研究所 水戸部修治

(2) 読書活動の現状

子どもの頃からの読書習慣を確立するために、静岡県では平成16年1月に「静岡県子ども読書推進計画」を策定し、平成20年2月に計画の見直しを図って「後期計画(平成20～22年度)」を策定した。平成22年度は、後期計画の最終年に当たることから、これまでの計画の現状と課題を踏まえて、平成23年3月、第二次計画を策定した。今後10年間取り組んでいく施策の方向の中で、次のような努力目標が示されているので抜粋する。

推進計画全体の達成指標	数値 (H25)	実績
本を読むことが好きだと答えた児童・生徒の割合	80%	小学校 73.6% 中学校 72.6% 高校生 60.7% (平成21年度)

目標項目	数値 (H25)	実績
朝読書, 読み聞かせ等全校で取り組む読書活動を実施している学校数の割合 (特別支援学校は, 児童生徒の実態に応じて, 朝読書, 読み聞かせ等の読書活動に取り組む学部数)	小学校 100% 中学校 100% 高等学校 90% 特別支援 100%	小学校 100% 中学校 100% 高等学校 78.2% 特別支援 100% (平成 21 年度)
1 か月の目標読書冊数	小学生 8 冊以上 中学生 4 冊以上 高校生 2 冊以上	小学校 6.1 冊 中学校 3.2 冊 高校生 1.8 冊 (平成 21 年度)

(3) 読書活動の様々な取組

読書の指導については, 目標を持って読書し, 日常的に読書に親しむようにすることや図書館の利用の仕方を理解することが求められている。下記に, 代表的な読書活動の例を示した。★印を付けた活動は国語科の授業で各領域と関連させてよく使われるものである。

実際に指導する場合の具体例は, それぞれの読書活動ごとに様々な文献に提示されているのでそれらを利用するとよい。

ブックトーク★	あるテーマに沿って, 様々な分野の数冊の本を順序よく紹介していく。
ストーリー・テリング	絵本や本の内容をそらんじて語っていくことで, 聞く側のイメージを膨らませ, 想像力や聞く心を育てる。
パネルシアター	大きなパネル板(毛羽立ちのよい布)に, 登場人物やお話の背景の絵(パネル板に貼り付く素材で作る)を貼ったりはずしたりしながら, お話を語っていく。
ペープサート★	登場人物を描いた紙を表裏2枚貼り合わせたものに持ち手を付け, 動かして紙人形劇を行う。
お話バイキング	事前に読み聞かせをする本の題名, 場所, 読み手を児童生徒に知らせておく。児童生徒は, 聞きたい本の場所へ行って読み聞かせを聞く。
親子読書	子供をひざや隣に座らせ, 読み聞かせを行う。親子読書カードに本の名前や感想を書き, 積み重ねていく。
読書アニメーション	ゲームを楽しむ感覚で, 自然に本の世界に誘う。指導者が盛り立て役に回り, 児童生徒の興味を引きながら本の世界に誘う。例「ダウトを探せ」「この人いたかな」
読書ジグソーパズル	本を読んだらパズルのピースをもらう。完成すると, ある本の表紙絵などができる。
読書の本	読んだ本の題名や感想を葉(色紙等)に書き, 掲示された木の幹に貼り付けていく。学級の読書記録として増やしていく。
読書スタンプラリー	教師や家族の人が選んだ「お薦めの本リスト」の中から読んで読む。1冊読み終わったら, 推薦した人にスタンプを押してもらう。
読書郵便★	本を読んで心に残った場面を, 葉書に絵や文章でかき, 郵便として出す。
ブックカード★ ブックポスター★	読み手の興味を引き出すよう, 書名, 作者名, お気に入りの場面の挿絵, あらすじ, 見出し, 推薦文などをポスターやカードに書き, 紹介をする。

本の帯づくり★	あらすじ、推薦文、本文の一部分など、作品の魅力を伝える本の帯を作成し、紹介する本に付ける。
紹介新聞づくり★	本を推薦する文章、作品に関するクイズ、人気の本の紹介、4コマ漫画で本の紹介などの記事をかき、編集する。
本づくり★	一つの作品を読んだ後、同じような文章で、内容を変えて自分でお話づくりをする。後で、つくった話を紹介し合う。
朗読劇★	物語等の作品を脚本に書き換え、役割を決め、朗読する。
読書会	一つの作品や一人の作家の作品などを話題にしながらか、感想を発表し合う。共感したり、感じ方の違いを互いに理解したりしながら、本に対する興味を深める。
読書発表会	グループで様々な本を紹介していく。一人一人の紹介の内容がつながりのあるものとなるよう、紹介の順番を決めた上で発表する。グループ全員の紹介が終わったら、聞き手は感想を伝える。

○ 読書活動に関する授業の参考例

【読んだ本について好きなところを紹介する事例】 小学校第1学年

単元を3次で計画し、第1次、第2次までの学習を生かして、第3次に自分のお気に入りの本を選び、本の小箱を作る。

本時の学習

- 1 お話を紹介するのに大切だと思うもの（主人公などの登場人物、登場人物が持っているものや大事なもの、登場人物が行く場所や住んでいるところ、繰り返し出てくるもの）などを見付ける。
- 2 お話の一番好きなところとその理由を書いて小箱に入れる「おすすめカード」を作る。
※「おすすめカード」を作る際には、好きな場面を紹介するために、選んだ本や文章を繰り返し読んでいく。

【神話・伝承などの読み聞かせを聞いたり発表し合ったりする事例】 小学校第2学年

神話や伝承を取り上げた文章や本の読み聞かせを聞き、話し合ったりクイズをし合う中で興味を持ち、神話や伝承の本や文章を発表し合う。

本時の学習

- 1 「いなばのしろうさぎ」の読み聞かせを聞く。（教師の読み聞かせ）
- 2 読み聞かせ後の感想を交流し合う。
- 3 クイズをする。（登場人物やその人物の行動、場面の様子やあらすじなどに関わるクイズを出す。）
- 4 面白かったところ、興味を持ったところを発表し合い、本時のまとめをする。

【紹介したい本を取り上げて説明する事例】 小学校第4学年

同じ年頃の主人公が登場する物語文を教材にして、読書新聞を作った後、第3次で自分の好きな物語を説明する読書新聞を作る。

読書新聞作り

- 1 読書新聞作りのための読みの視点を意識して並行読書をする。
- 2 単元の導入部や第2次の冒頭において、新聞記事のモデルを基に、どのような割り付けで、どのように書き進めればよいかを、児童がイメージできるようにする。

参考「言語活動の充実に関する指導事例【小学校版】～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～
文部科学省初等中等教育局教育課程課 平成22年12月」